

タイ経済指標斜め読み

(2026年1月版)

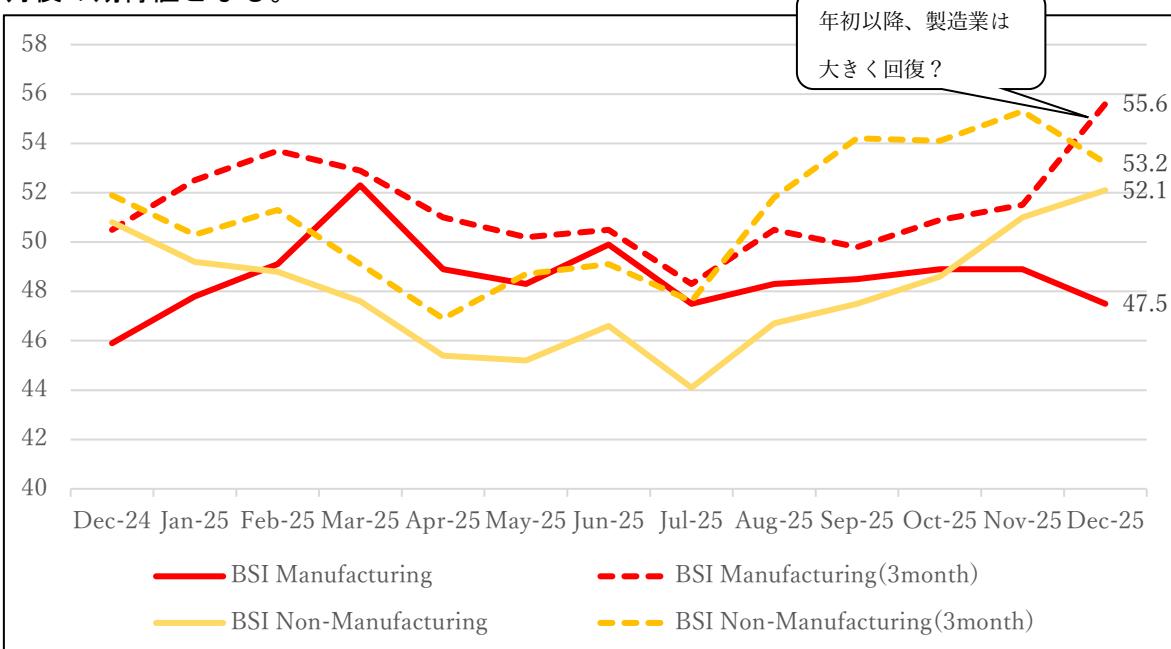
ビジネスサポート部

加藤義人

kato@mat.co.th

■No. 1 ■【指標データ】景況感指数

タイ中央銀行(BOT)は、2025年12月の産業景況感指数(BSI)を発表した。(50=前月から変化なし)下グラフは、BSIの主要構成要素である製造業と非製造業の当月と3か月後の期待値となる。

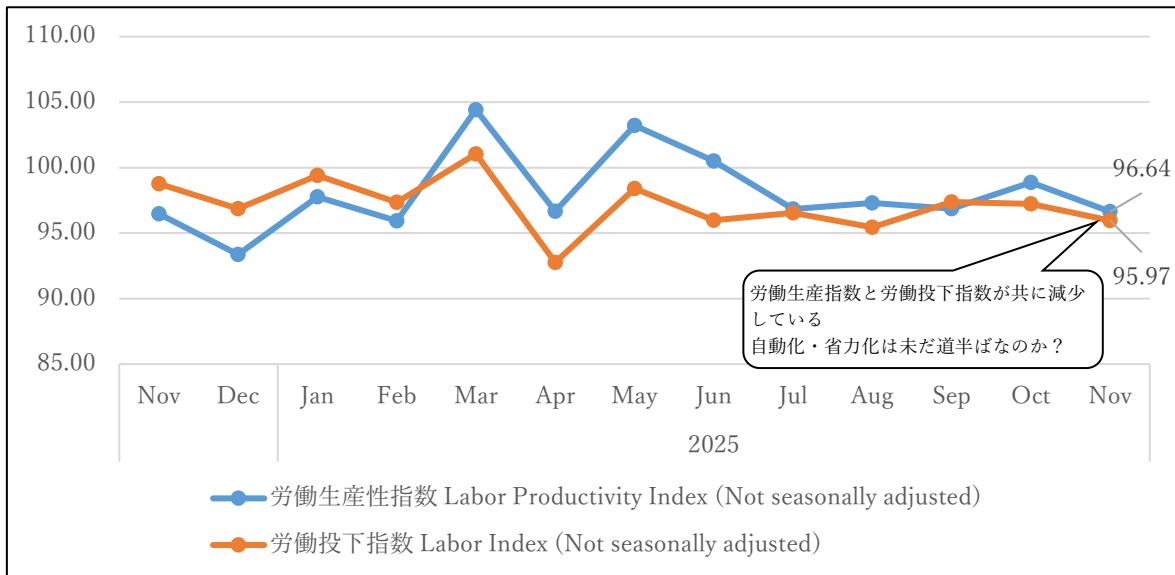


12月の製造業BSIは47.5、同期期待値は55.6となった。非製造業BSIは52.1、同三か月後の期待値は53.2となった。製造業BSIのみが閾値の50を割る結果となった。要因として、国内消費減退が続いていることや、米国向け輸出関税に於ける輸出の減少などで、エレクトロニクス産業以外はパッとしない状況が続いていることが伺える。とは言え、同3か月後の期待値では大きく改善傾向にある事から、消費マインドや輸出が増加していく事が期待されている。次に非製造業BSIだが、タイ政府の経済支援策が立て続けに行われている事や、財政支出でインフラ関連企業の懐が温まったこと、観光シーズン真っ只中で、ホテルや飲食関連が好調であることが窺い知れる。とは言え、同三か月後の期待値では、下落に転じるとの予測となっており、3月以降の動向が懸念されるところ。

出所 : <https://www.bot.or.th/>

■No. 2 ■【指標データ】労働指数

タイタイ商務省工業經濟事務局 (OIE) は、11月の労働生産指数ならびに労働投下指数を発表した。 (2021年=100)



労働生産性指數 : (Labor Productivity Index) 労働力の生産性を測定するための統計的指標です。一定期間内に生産された財やサービスの価値と、その生産に要した労働力の量を比較することによって計算されます。

労働投下指數 : (labor Index) 企業や組織内の従業員の数と従業員が実際に仕事に費やした時間を比較することによって計算されます。

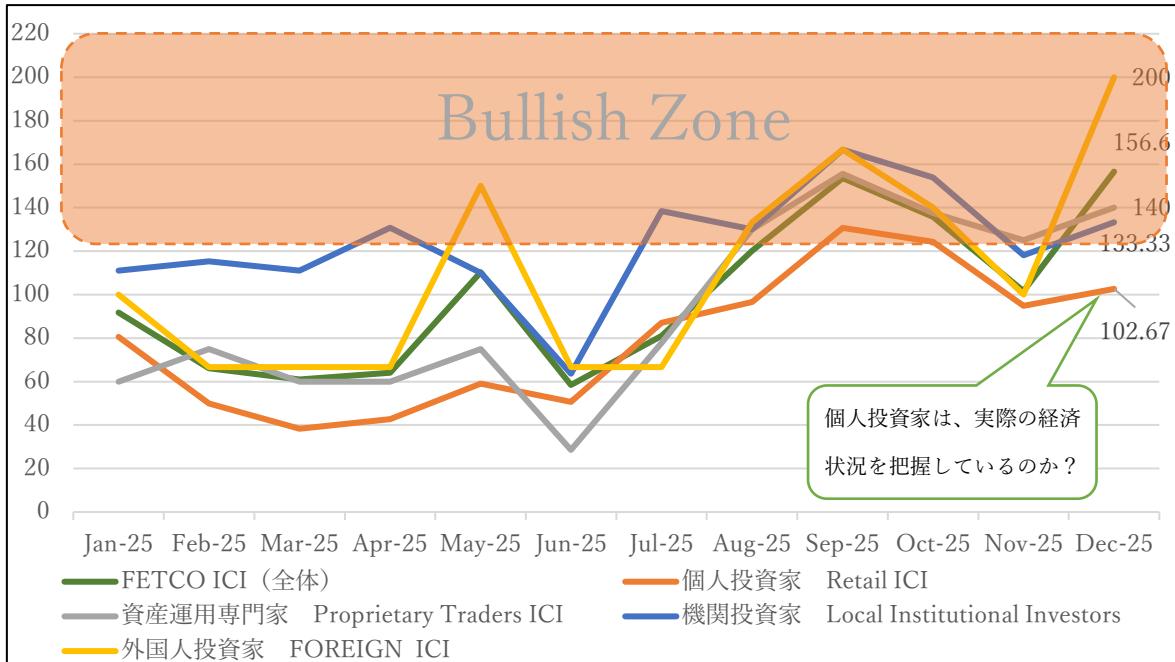
(労働投下率が高い → 労働集約的産業、労働投下率が低い → 資本集約的・効率的産業)

11月の労働生産性指數は96.64、労働投下指數は95.97となった。共に基準年の100を下回るとともに前月から改悪となった。上記の出荷指數と生産性指數と同様の傾向を示している。一方、企業は新規の投資を控え、設備の自動化や省人化を行っていると思われるのだが、このグラフを見るとそうとも言えない状況。自動化や省人化で労働投下指數が減少したのであれば、労働生産性指數は上昇に向かうと思うのだが、そうなってはいない状況にある。まだ企業は改善中で結果が出ないのであれば仕方ないが、実際は生産量が落ちていると言った方が妥当だと思われる。

出所 : <https://www.oie.go.th/>

■No. 3 ■【指標データ】投資家指数

タイタイ資本市場連合会（FETCO）は、12月の投資家指数（ICI）を発表した。指標は、向こう三ヶ月（3月）の景気を予想したものとなる。



(79以下：弱い、80—119：どちらでもない、120以上：力強い)

12月のFETCO投資家指数（全体）は、156.6となり、昨年10月の160以来の高い値を記録した。特に外国投資家のICIが200を記録し、昨年の9月以来の高指標となった。要因として、タイ国内の政治が安定している、外貨の流入が増加している事、タイ中銀の金利利下げと米FEDも金利が低めで推移していることが挙げられている。一方、タイ・カンボジア紛争、アメリカのベネズエラ大統領拘束、国内需要低迷、タイバーツ高など、不安定要素を抱えており、この傾向がいつまで続くか予想が困難な状況。

出所：<https://www.fetco.or.th/>

筆者紹介：2001年にタイ日系IT企業の責任者として赴任後、バンコク日本人商工会議所、タイ邦銀支店関連子会社などで企業・経済調査などを経験し2018年MAT社に入社、現在に至る。アメリカ、香港、ミャンマー、タイなど海外在住歴は30年以上。

2026 Material Automation (Thailand) Co., Ltd. All Rights Reserved.

本データは情報提供を目的として作成されたものであり、営利を目的としたものではありません。作成時点では、MAT社ビジネスサポート部が信ずるに足ると判断した政府が発表するデータに基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。掲載内容は毎月変更されます。報道目的以外での引用・転載については当社までお問い合わせください。